

TAMA CINEMA通信



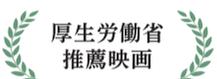
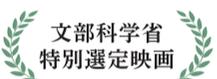
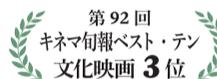
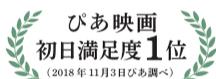
TAMA CINEMA FORUM

TAMA 映画フォーラム実行委員会 〒206-0025 多摩市永山1-5 ベルブ永山 (永山公民館内)
代表: 042-337-6661 直通: 080-5450-7204 <http://www.tamaeiga.org/>

2019年第2回特別上映会、みなさまのお越しをお待ちしています！

日時：3/23(土) 場所：ベルブホール (ベルブ永山 5F 京王永山駅・小田急永山駅下車徒歩約2分)

『ぼけますから、よろしくお願ひします。』 ※4回上映



ぼけますから、



家族の太陽だった母が認知症に。
夫婦とは、家族とは一。
ひとり娘の目線で追ったドキュメンタリー。

よろしくお願ひします。



上映スケジュール

- ①10:30 ~ 12:12 作品上映
- ②13:00 ~ 14:42 作品上映
- ★14:42 ~ 15:10 ゲストトーク
- ③16:00 ~ 17:42 作品上映
- ④18:30 ~ 20:12 作品上映

*全席自由・各回入替制。開場は15分前です。
*上映時間は変更になる場合があります。
*トークはチケット(半券含む)提示で入場できます。

チケット料金

前売・インターネット予約：1,000円
当日：1,200円(一般)
600円(子ども4歳~小学生)

*TAMA 映画フォーラム支援会員、障がい者とその付添者1名は当日600円です。

ゲストトーク 14:42 ~ 15:52 開催

本作ご夫婦の「ひとり娘」であり、
監督をされた信友さんがお越しくださいます！



信友直子 ひとり娘/監督・撮影・語り

1961年広島県呉市生まれ。東京大学卒業。
在京キー局で数多くのドキュメンタリー番組を手がける。
放送文化基金奨励賞、ニューヨークフェスティバル銀賞、
ギャラクシー賞奨励賞など受賞多数。

前売チケット購入

以下の場所でご購入いただけます。

- 多摩市立永山公民館 (休館日・祝日を除く 9:00 ~ 17:00)
- ひまわり (多摩市役所売店)
- 多摩ボランティア・市民活動支援センター (聖蹟桜ヶ丘ヴィータ 7F)
- おしごとカフェ キャリア・맘 (ココリア多摩センター 5F)

*特に表記のない限り、営業時間(開館時間)にお買い求めいただけます。

企画者からのメッセージ

「ぼけますから、よろしくお願ひします。」と言われたらなんと答えようか……。もしくは、そう言える相手はあるだろうか……。と、考えた方もいるのではないのでしょうか。このタイトルを目にして映画に関心を持った方もいらっしゃるかもしれません。

本作は昨年の11月に公開されてから各地で話題となり、今でも多くの方が劇場に足を運んでいます。それだけ、「介護」や「認知症」に対する人々の関心が高いのが分かります。本作で撮られている認知症も、老々介護も、高齢の両親と離れて暮らす娘も特別なことではありません。だからこそ、「普通」の親子に共感し、時に自分を重ね合わせて観る方もいると思います。家族の、自分のこれからのことに不安を感じている方の気持ちが少しでも和らぎますよう、大変な時にこそ手と手を取り合う風景が思い出されますように。(矢野緋奈子)

実行委員がセレクト！

『ぼけますから、よろしくお願ひします。』と

あわせて観たい映画 6選

1 『モリのいる場所』

(監督：沖田修一／日本／2018年／99分)



「モリ」こと、画家・熊谷守一のエピソードをもとに描かれたオリジナルストーリー。本作はモリの晩年の1日を描いている。「行ってきます」とモリ、「行ってらっしゃい」と妻、秀子さんが言葉を交わし、庭の冒険が始まる。杖をつきながら歩き、時には寝転がり、虫や葉を見つける。その表情は94歳のおじいさんというのに童心そのものでチャーミングだ。そして、その飽くなき探求心にも驚

かされる。のんびりした空気感に軽快な音楽が乗り、小気味のいい演出が際立つ。次から次にモリの家に来客が絶えないのはひとえにモリと妻、秀子さんのユーモラスで温かな佇まいが人を惹きつけているからに違いない。

どんなことがあってもいつでも当たり前のように寄り添う夫婦の姿に、歳をとることも悪くないなと思った。(H.Y)

『わが母の記』 2

(監督：原田真人／日本／2012年／118分)

井上靖の小説を原田真人監督が映画化。小説家の伊上洪作を役所広司、母・八重を樹木希林、洪作の三女・琴子を宮崎あおいが演じている。樹木は第36回日本アカデミー賞・最優秀主演女優賞を受賞した。

家族の関係は簡単に切れないものであり、その関係自体も時間とともに変化していく。八重の姿が、その変化を見事に表している。会話が曖昧になっていく様は、頼りになる存在へと成長していく琴子とは対照的だ。そんななか、記憶と妄想の海を漂いながら洪作の幼少期の詩を暗唱したときの八重の表情からは、複雑に絡み合う長年のいくつもの感情を読み取ることができた。時間経過と



関係の変化がもたらした美しい瞬間が、脳裏に焼きついて離れない。(渉)

3 『港町』

(監督：想田和弘／日本／2018年／122分)

ドキュメンタリー映画でありながらリサーチや打ち合わせを行わず、テーマも設定せずに題材や被写体を撮っていくという「観察映画」という手法で撮影された作品の第七弾。

本作では、岡山県の牛窓という港町のコミュニティーを「観察」していくのだが、出てくるのはおじいちゃん、おばあちゃん、そして猫。モノク

ロの画面に映る生活はのんびりと穏やかでほほえましく見えつつも、ときおり立ち現れてくる生の人間味にどきりとする場面もある。特に、作中で親しげにカメラに話しかけ、町を案内してくれるクミさんが印象的だ。彼女が終盤にふと見せた心の深みに、言葉にできない何かを強く感じさせられた。(永井)

RECOMMENDED MOVIES

『ぼけますから、よろしくお願ひします。』の特別上映会を盛り上げるべく、TAMA 映画フォーラム実行委員が「あわせて観たい映画」を選びました。これらの作品から『ぼけますから、よろしくお願ひします。』の面白さを感じていただき、他の作品にも興味がわいたら、ぜひチェックしてみてください。

4 『母よ、』

(監督：ナンニ・モレッティ／イタリア・フランス／2015年／107分)

映画監督のマルゲリータは様々な問題を一度に抱えてしまっている。プライベートでは恋人と別れたばかり、離婚した夫との娘は反抗期に突入、新作映画の撮影は思うように進まない。なかでも一番心配なのは、入院中の母のこと。その母が余命わずかだと宣告され――。

監督による自叙伝的作品でもあり、

重いテーマを背景に登場人物それぞれを際立たせながら、誰もが直面するであろう「家族とは」、「人生とは」、を時にコミカルに、時にアイロニカルに描いている。

当たり前だった母の存在が危うくなることに葛藤する娘、子がいくつになっても愛おしいまなざしで応える母のシーンは誰もが共感するのではない

だろうかと思う。

主人公の女性映画監督役に本作で通算7度目のダヴィッド・ディ・ドナテロ賞 最優秀主演女優賞を受賞したマルゲリータ・ブイ、兄役をナンニ・モレッティ監督自身が演じている。第68回カンヌ国際映画祭エキュメニカル審査員賞受賞作。(F.I)

『ペコロスの母に会いに行く』 5

(監督：森崎東／日本／2013年／113分)



漫画家・岡野雄一が認知症の母との何気ない日常を綴った自費出版のエッセイ漫画を森崎東監督が映画化。深刻な社会問題として語られがちな介護や認知症といったテーマを喜劇映画として成立させている。みつえを演じた赤木春恵は「世界最高齢映画初主演女優」としてギネス世界記録に認定された。

みつえの過去の記憶が鮮やかに描かれる本作を通して考えさせられるのは、人がもつ想像力のゆたかさだ。亡くなった

夫との思い出や親友とのエピソードなどがよみがえり、現在の生活ににじみ出てくる。みつえは「死んでからのほうが、よううちに会いに来てくれたとよ」と彼らのことをいう。記憶は時空をこえて再生し、より美しく印象的に語られていく。ラストにむかって、映画にしかできないというべき表現で観る者のイメージネーションを喚起し、物語に引き込ませる森崎監督の仕事に圧倒される。(渉)

6 『殺人者の記憶法』

(監督：ウォン・シニョン／韓国／2017年／118分)

かつて連続殺人鬼だった男が、アルツハイマー病に侵されながら一人娘を守るために現代の殺人鬼と戦うというサスペンス映画。途中で展開がガラリと変わる別のバージョンも製作されている。

主人公の設定がとてもユニークで、殺人者としての鋭い直感を発揮するかと思えば、次の瞬

間には、次第に悪化するアルツハイマーの症状で記憶があやふやになってしまうという描写がミルフィーユのように折り重ねられ、観ている側も何が正しくて間違っているのかがわからなくなる。記憶がなくなるサインである眼輪筋の痙攣など、主演のソル・ギョングの演技も見どころ。(永井)

3/23[±]

『ぼけますから、～』
上映会でお待ちしています!

2/16㊥『若おかみは小学生!』@ベルブホール

上映前応援トーク:香川愛生さん／上映後トーク:高坂希太郎監督ほか

上映後トークの様子。
左奥から豊田智紀氏(プロデューサー)、増原光幸氏(テレビアニメ版監督)、高坂希太郎監督、齋藤雅弘氏(プロデューサー)



今回の上映会を企画したのは、「喪失と再生」というこの作品のテーマの置き方とその扱い方に大きく感銘を受けたからでした。

お神楽で始まってお神楽で終わるところが象徴するように、ありのままの他者や自然をありのままの心で受け入れるためにはどうすればいいのか。そこに愛別離や怨憎会、五蘊盛といった仏教が取り扱う苦しみを配置することで、観る側は人生経験があればあるほど主人公のおっこに自分を重ね合わせるようになります。

その誠実な作り方が思わぬ功を奏し、多くの大人たちに絶賛された本作品を、本来のメインターゲットである子どもたちに観て

もらいたい。その一心で準備を進めて当日を迎えました。ゲストに来ていただいた高坂監督をはじめとする製作のみなさんも、会場の盛況ぶりから多摩の子どもたちに作品が受け入れられたことを感じていただけそうです。(永井)

TAMA CINEMA FORUM からのお知らせ

次回上映会は 4/27 ㊥

桜の季節にぴったりの
『四月の永い夢』を上映します！

第3回特別上映会は『四月の永い夢』(出演:朝倉あき、三浦貴大他)を上映。恋人を亡くした女性が、悲しみややりきれなさを抱えながらも次のステージに向かう姿を温かく描いた作品です。国立市をはじめ多摩エリアの美しい情景が見所。中川龍太郎監督の登壇も決定！

実行委員になって、一緒に映画祭をつくりませんか？

4月21日(日)15時から、
実行委員 募集説明会を実施します！

TAMA 映画フォーラム実行委員会は、2019年11月23日～12月1日に開催予定の第29回映画祭 TAMA CINEMA FORUM を一緒に作る実行委員を募集しています！興味のある方、企画・運営などの映画祭の裏側に携わってみませんか？

上映プログラムを企画したい、イベント運営に興味がある、広報・宣伝をやりたい……など、映画祭づくりの現場には、あなたの希望に沿って力を発揮できる領域がたくさんあります。また、映画好きやイベント好き、地域の方々など、市民が作る映画祭だからこそその出会いがあなたを待っています。

4月21日(日)に説明会を開催いたしますので、興味のある方はお申込のうえ、ぜひご参加ください。また日程の合わない方は個別に説明いたしますので、お気軽にご相談ください。詳細はホームページをご覧ください。

支援会員さま募集！

応援お願いします！

当映画祭と一緒に支えて頂ける支援会員を募集しています。映画を「観る人、観せる人、創る人」の交流の場づくりを通じた、地域と日本映画界の活性化に向けて、資金面でサポート頂けませんか。ご支援頂いた方には特典をご用意していますので、ぜひご協力をお願い致します。

【支援金寄付 個人会員】 一口1,000円

郵便振替番号 00160-5-541123

加入者名 TAMA 映画フォーラム実行委員会

【特典】

① 映画祭チラシ送付

② 映画祭パンフレット贈呈

③ 特別上映会割引(当日チケットを支援会員特別価格に！上映会は2～8月の間に4～5回開催予定)

④ 映画祭割引(映画祭の当日チケットを前売価格に！)

※その他特典もご用意する予定です。

次回号からリニューアルします！

新 TAMA CINEMA 通信もお楽しみに！

編集メンバーも変わり、TAMA CINEMA 通信をリニューアルします。TAMA CINEMA FORUM の活動や上映会情報、映画のおもしろさをさらに強力に、楽しく、お伝えしていきます。

次回号は4月号。4月下旬に発行予定です。乞うご期待ください！こんな企画をやってほしいといったリクエストもお待ちしています。ご連絡は以下お問い合わせ先へお願いします。

予告(まだまだ先ではありますが…)

第29回映画祭 TAMA CINEMA FORUM は、

11月23日～12月1日

(予定)

今年どんな映画にワクワクさせてもらえるでしょうか？一緒に楽しみましょう！

最新情報、お問い合わせはこちらから

WEB www.tamaeiga.org TAMA 映画フォーラム実行委員会ホームページ

@tamaeiga (TAMA 映画フォーラム【公式】、TAMA 映画フォーラムの活動、上映会情報をつぶやいています)

www.facebook.com/tamaeiga (「いいね！」お待ちしております)

